

研究者との出会い

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/9153

研究者との出会い

My acquaintance with scientists

金沢大学医学部第二内科教授

馬 洸 宏

研究者との出会いがその後の研究に非常に役立つことがあるので若い研究者に参考になればと思い書いてみた。1976年当時、希な疾患と考えられていた家族性高コレステロール血症 (FH) 患者が非常に多いことに気付いていた私にとって、Goldstein と Brown の FH 患者における LDL レセプター欠損とコレステロール合成酵素 (HMG-CoA 還元酵素) 制御異常に関する論文は感動的であった。FH 患者を多数持っている私としては直ちに LDL レセプター活性と HMG-CoA 還元酵素活性を測定する必要性を感じ、当時、日本でこの酵素に関する第一人者であった三共㈱の遠藤章博士の指導を受けた。同時に遠藤博士が HMG-CoA 還元酵素阻害剤 (コンパクチン) を発見しており、また Goldstein とすでに知り合いであることも知った。このコンパクチンが、現在、世界的に最も使用されている薬剤の一つに発展していくことになる。

1989年私がシアトルのワシントン州立大学の留学へ出発する前日、偶然 Goldstein が初来日することになり、遠藤博士の仲介ではじめて Goldstein と会う機会を得た。私の Am J Med 65: 2902, 1978 のリプリントを差し出すと Goldstein は “I know……” とのことであった。リプリントの表紙裏に Goldstein のサインをもらったが、その当時からこの天才的な学者はノーベル賞を受賞するのではないかと思っていたからサインを依頼したのだが、事実6年後の1985年 Goldstein & Brown はノーベル賞を受賞した。

米国留学も終わる頃、日本で FH 患者で治験したコンパクチンの成績を N Engl J Med に投稿した。この論文に対して Goldstein & Brown が editorial で、Many hurdles must be overcome before compactin or mevastatin can be accepted as a “penicillin” for hypercholesterolemia. と評価した。翌日の New York Times, Los Angeles Times などに掲載され、米国のテレビニュースなどボストン発 AP 通信で世界的なニュースとなった。その後、Goldstein らがコンパクチンと陰イオン交換樹脂の併用は相加的にコレステロールを低下させることを犬で証明していたので、私は FH 患者でそのことを実証した。再来日した Goldstein にこの成績を見せたところ “beautiful” と誉め、「この論文も N Engl J Med に投稿してくれ、そうすれば

多分レフリーは私に回ってくるだろう」と助言してくれた。すんなり受理されたことは言うまでもない (N Engl J Med 308: 609, 1983)。当時 Goldstein の研究室に留学していた先生から Goldstein が「良い論文が出た」と私の論文を研究室中持ち回ったと聞いている。翌年、Goldstein の研究室でセミナーをさせていただいたが、今から思うと業績不足で冷や汗ものであった。1985年 Goldstein と Brown はノーベル賞を受賞したが受賞発表一ヶ月後に研究室を訪れたが、受賞前と変わらず研究一筋の生活を送っておられるのに感心した。1992年に Goldstein & Brown を金沢にお招きし講演会を開催できたことを光榮に思っている。

1983年、高脂血症の遺伝子研究の必要性を感じていた私は、この方面の先駆者であるハーバード大学の Breslow を訪問することにした。午前中、Breslow から研究の指導を受け、午後はハーバード大学の図書館の N Engl J Med の編集部も訪ね、J. F. Kennedy Library やハーバード市内を案内してもらい、奥さんを交えて夕食をいただいた。その時、私たちが経験した善玉 HDL-CHOL が高い患者について相談したところ、「これはラットの血清リポタンパクに似ている。ラットはコレステロール転送蛋白 (CETP) が欠損した動物だからこの患者でもそれが欠損しているのではないか？」とのヒントをもらい、早速検討したところまさに CETP が欠損していることが明らかとなった。この CETP 欠損症の遺伝子異常の解明についてコロンビア大学の Tall と共同研究し Nature 342: 448, 1989, N Engl J Med 323: 1234, 1990 に発表することになったが、その後、Breslow もロックフェラー大学に移り、現在 Tall と Breslow は共同研究をしている。1992年、私が学会を主催する機会があり両先生を金沢へお招きした。今年11月のアメリカ心臓学会には世界各国から3万人が参加したが、明年の会長に Breslow が選出されているのに驚いた。

このように何人かの学者との出会いがあったが、良い症例、良い研究データを持っておれば一流の研究者と出会う機会は少なくないし、積極的にアプローチもできる。より良い出会いのために良い研究をしておくことが大切であることを今一度強調しておきたい。